



PTA あいさつ運動ありがとうございます。

PTA 会員の皆様におかれましては、磯田会長を中心に学校へのご支援ご協力ありがとうございます。今年度は組織改革にともない、PTA 活動内容なども縮小し、本当に必要な支援に特化して活動していただいています。広報「こうちゃん」も1学期末に配布した84号をもって終了となりました。また保護者用の新駐車場も、長年手つかずであった特別会計を使って完成していただきました。ありがとうございました。

2学期より、役員・委員で行っていた朝のあいさつ運動を全PTA会員にひろげ、正門、北門、東門に立っていただくことになり、2日(月)の朝、民生委員さんと一緒にあいさつ運動に参加していただきました。久しぶりの登校に少し疲れている子もいましたが、地域の方保護者の方に声をかけられて、やる気スイッチが入り、大きな声であいさつしている子もいました。

朝のお忙しい時間貴重な20分間ですが、地域の方、保護者の方を交えてあいさつ運動することで、今まで以上に地域住民同士のネットワークが形成され、さらに防犯や防災に強い地域になると思われます。逆に、他人に無関心であることが犯罪に気づかない地域、犯罪を実行しやすい地域を生んでしまうといえます。あいさつを通して助け合いの心や相手を気遣う心が生まれることでしょうか。また日常的にコミュニケーションがスムーズである環境がバリアとなり、犯罪の起きにくい地域をつくることができると言われています。

災害が起こったときも、子どもたちが地域の人や保護者の方を知っているというだけで心強く、おうちの人に会えるまで、待つことができることと思います。

子どもたちにもこのような「あいさつ」の大切さを伝え、子どもたち同士のコミュニケーションだけでなく、地域の方とのコミュニケーションへと広がっていけるよう、教職員も元氣な挨拶を心がけていきたいと思えます。



前回のお便りで学校行事の日付が間違っていました。正しくは
12月23日(月)終業式です。
すみませんでした。

教育を語る会が行われました。

9月4日(水)にPTA 家庭教育学級部主催の『教育を語る会』が行われました。教育委員会事務局教育支援課 橋本先生を講師に招き、「自己肯定感を高める取組」についてお話をいただきました。『自己肯定感』という言葉が最近よく聞くことがあると思いますが、『自己肯定感』とはどのようなものでしょうか。

『自己肯定感』とは

○ありのままの自分を価値あるものとして大切に
思える気持ち

○「自分は、自分であっていい」と思える感覚
とされています。また『自己肯定感』が高い人は
ストレスに強く、人間関係、仕事、学業などのさまざまな領域で
成功を収める可能性が高まるともされています。
生きる土台、エネルギーを生み出してくれるものなのです。

橋本先生のお話によると、大事なポイントは3つ

① 何気ない会話が大切！

よさを認める会話 ありのままの姿を受け止める会話
何気ない話が子どもたちの最高の安心材料となるわけです。
「ありのままの姿」を受け止める会話は、まず気持ちを受け止める。
お子さんが言ったことをそのままオウム返しのように映し返しをして
言葉によるスキンシップを行う。次に言葉や事実を確認する。
また、ついつい「～しなさい」と行動を促す言葉を言いがちですが、
保護者さんの思い、気持ちを伝える言葉をたくさん話すことが大切だそうです。

② 体験を共有すること

一緒に料理をする。お掃除をする。
一緒に散歩をする。スポーツをする。
一緒に夕日を見る。映画を観る。

体験の共有 = 感情の共有

③ 親切・人助けをする体験

人に親切にしたり助けたりすることで、相手に感謝をしてもらったり、褒めてもらったりしたことが、
自分が他者にとって有用であると感じ、存在価値を感じることができます。

最後にお子さんの自己肯定感を高める最大の基盤は、保護者の自己肯定感、親の自己肯定感の高さに大きな影響を受けるとお話をされました。

○親が幸せであること ○ほどよく、「いいかげんな親」であることも大切だそうです。

とはいえ、日々忙しい毎日、心に余裕もなかったり、時間もなかったり、本当に大変な時はいろんな人に助けってもらっていいと思います。学校(担任など)にも「Help」で言ってもらえると、声をかけも多くなるなどできますし、地域の方や、保護者同士、みんなで助け合って、国府小学校の子どもたちを育てていくといいと思います。子どもの未来は、私たち大人の未来でもあります。がんばっていきましょう。



「おすすめの絵本」はくはなきました
「おどけてませんように」の2冊
読み聞かせをしていただきました。